

(様式 4)

令和 8 年 3 月 1 3 日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立魚津高等学校
校長 金 田 幸 徳

令和 7 年度学校総合評価を別紙（様式 5）とともに提出します。

令和 7 年度 学校 総合 評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、スクールポリシーを実現すべく、現状と課題を教職員間で共有し、「進路指導方針の理念の共有」と「魚津高校らしい指導の継承」を核とし、本校の現状とそれに対する本校教職員の問題意識の実態に即して、

- ① 学習活動：生徒が主体的に参加できる授業への改善、家庭学習時間の充実
- ② 学校生活：スマートフォン、インターネット等の正しい利用について
- ③ 進路支援：生徒一人一人が自己のあり方、生き方を考え、学習意欲を高める指導
- ④ 特別活動：生徒の自主的・自律的な活動の充実
- ⑤ その他：読書習慣の確立に向けた図書委員会における支援活動の充実、多様性に応じたカウンセリング支援

の 5 点を重点項目・重点課題として掲げ、それぞれに達成目標を設定して教育活動を行うこととしてきた。

学習活動では進路希望が叶うよう主体的な授業への参加や家庭学習時間の充実に向けて自己の学習状況の振り返りを実施した。また、近年、探究活動や協働的な学びの機会が増えつつある中で、ICT 活用の幅が広がることから教員向けの研修や授業実践の事例共有を行った。学校生活では健全な高校生活を送るための基本的な生活習慣の確立を考えさせるとともに SNS 等の利用法や危険性について指導した。また、インターネット利用の実態把握のためアンケートを実施した。進路支援では 3 年間を見通した進路指導計画を作成し、学習状況の把握をするために教科担当者を交えた学年検討会や出願のための進路検討会を開き、共通意識を持って学年だけでなく全教師集団による指導体制を作った。特別活動では生徒の自主的・主体的な学校行事の運営を旨とし教師集団は生徒の伴走者に徹し生徒の自主自立の支援をした。その他、読書習慣の確立に向けて、図書委員が中心となって、HR を利用してクラスごとに図書館を利用する企画を実施するなど読書習慣が定着するように努めた。

学校評議員からは特に生徒の自主自立支援のための取り組みが学校生活、特別活動の部分で奏功している点を評価する発言があった一方で、もっと生徒にゆとりを持たせるようにしてもよいのではないかという意見があった。総合的に見て、生徒と教職員が一体となり計画的に教育活動が行われていることから、さらに魚津高校らしい充実した取り組みを継続して行って欲しいとの評価を得た。

7 次年度へ向けての課題と方策

重点項目・重点課題を見直した上で、引き続き全教職員で学校の現状に対する共通認識を持ち、改善に向けた取り組みを継続していく。すべての学年が、学習指導、進路支援、そして生徒の自主的・自発的な活動に対する支援の充実を図り、そのための方策として ICT の活用と互見授業の充実により授業のノウハウ共有と教師の授業力向上を図る。また、「進路探訪」や「海外研修」等、特色ある学校行事の充実、改善を目指すとともに「総合的な探究の時間」を活用して、地域や大学と連携を取り、生徒がより広い視野で自身の能力を最大限伸ばしていけるよう全教職員が連携して生徒を支援する態勢の構築をする。